

# 法と人間行動を心理学的に解明することが交通安全につながります。

シーモア・  
ワップナー

Psychological Elucidation of Law and Human Behavior Relation Leads to Traffic Safety

*Seymour Wapner*

**浅井** アリゾナ大学での日米セミナー「環境—行動研究」で先生が発表された「シートベルト着用の心理過程—日米比較」は興味深い論文でした。日本では2カ月前にシートベルト着用が法制化されたばかりですので、今日は論文の要点をお話し願えますか。

**ワップナー** シートベルト着用の法制化は、社会・文化からみて重要な問題です。法律が個人の日常行動をどのように変容させるかを研究する、またとない機会でもあります。マサチューセッツ州でも着用が1986年1月から法律で義務づけられることになりました。

**浅井** 永年に亘り続けておられる“critical transitionにおける人間行動変容”についての研究の新しいテーマというわけですね。

**ワップナー** われわれの研究ではドライバーを、シートベルトを全く着用しないnon-user、状況に応じて着用するvariable-user、運転時には常時着用するcommitted-userの3グループに分けました。そこに深層面接法を併用して、シートベルト着用に関する考え方、着用の契機となった経験などについて、グループ間の差異を明らかにしてきました。

**浅井** 研究に着手した時期は……？

**ワップナー** 1年程前になります。その頃マサチューセッツ州議会では、また法制化は取り上げていませんでした。

では研究結果の要点を紹介しましょう。最初の研

究では、non-userとcommitted-user間には明らかな差異を見出しました。non-userはあらゆる運転状況を自分自身でコントロールできると信じています。したがって運転自体になんらの問題も感じていません。これに反しcommitted-userは、すべての状況を自分自身の力でコントロールすることは不可能だと考えています。他のドライバー、歩行者、道路状況、天候など自分で支配することができない要因が事故



アメリカ東部私立名門校クラーク大学の最高栄誉のStanley Hall Professorのチェアシップを持つ心理学者。transactional心理学の見地から環境—行動研究などの領域で精力的な活躍を続けている。

につながると認知しています。つまり自分以外の原因で事故にまきこまれる可能性を信じています。さらにnon-userは、たとえ事故が起きても、傷つくのは自動車だけと考えています。committed-userたちは、事故にまきこまれれば、かならず人間が傷つけられると考えているのです。

これと関連して、常時シートベルトを着用するようになった契機は、自分か近親者が交通事故を経験したことが引き金になっているようです。

variable-userは、non-userとcommitted-userとの中間に位置するドライバーといえます。variable-userは、状況に応じてベルトを着用するドライバーた

ちです。市街地では着用しないが、高速道路では着用するなど一貫していません。

**浅井** 米国人ドライバーを対象としたこの研究をもとにして、日米間の比較研究を始めたわけですね。

**ワップナー** 日米比較研究では、質問紙と路上観察とを併用しました。調査は60年の7月の上旬に行い

